

あまちゃん通信

第3号

平成24年11月15日発行

■企画・編集・発行

朝の連続テレビ小説「あまちゃん」
支援推進協議会事務局

電話：0194-52-2111

FAX：0194-52-2367

「あまちゃん」ロケがスタート!

10月18日(木)から「あまちゃん」ロケがスタートし、各地でロケが行われています。久慈秋まつりの再現や久慈駅周辺の大規模ロケなど、地域の皆さん、エキストラの皆さんのご協力を得て順調に撮影が進んでいます。

11月中旬までのロケも残りわずか。どんな作品が見られるのか、今から楽しみです!

取材会が開催されました

11月1日、久慈市宇部町の小袖漁港でロケの様子が報道陣に公開されました。当日は県内はもとより、首都圏からも報道関係者が集まり、注目度の高さがうかがえました。

取材会は小袖地区に作られたセット前で行われ、久慈の印象を聞かれたアキ役の能年玲奈さんは、「最初はいかつい海だな~と思ったけど、海に入るときれいで穏やか。」と表現。

アキの母親役の小泉今日子さんは、能年さんについて「普段はおとなしくて不思議な子だが、カメラが回ると根性がある。」と太鼓判を押したほか、アキの祖母役の宮本信子さんは「能年さんの表情を見ていると、出演者全員とろーっとなっちゃうんですね。そのぐらい何にも染まっていない。その良さが朝ドラに反映されると思う。」と目を細め、能年さんは「小泉さんと宮本さんがお母さんとおばあちゃんにいてくださるので、自分もアキにならなきゃという熱い気持ちで沸いてきます」と語りました。

訓覇(くるべ)圭チーフプロデューサーは、「地元の方の演技がうまくてびっくりした。」と市民エキストラを絶賛。「この土地で流れている時間とともに、女三代の交流をずっと描いていきたい。明るく元気になれるドラマを作っていきます」と意気込みを語り、温かく和気あいあいとした取材会となりました。



役柄の衣装で取材会に臨んだ能年玲奈さん(中央)
宮本信子さん(右)、小泉今日子さん(左)



能年さんが質問に回答すると、みんなが笑顔に

北三陸 紹介コーナー

このコーナーでは「あまちゃん」の舞台となる北三陸の魅力を紹介していきます。

第2回 洋野町「海じかん・山じかん・洋野じかん ～いやしの旅はひろのから～」

岩手県の北東部に位置する洋野町は、北は青森県三戸郡階上町、南は久慈市、東は太平洋に面し、山林が地域面積の7割を占める自然豊かな海と高原の町です。

特に岩手県屈指のウニの産地として有名で、身が大きく濃厚な甘さに定評があります。

また、世界一の技術を持つ「南部もぐり」でも知られているほか、近年では「いい波」を求めて、全国各地からサーファーが集まり、夏の浜辺が賑わいを見せています。

このほか、大野地区では木工製品などの地元資源を生かした「一人一芸の里づくり」に取り組んでおり、「おおのキャンパス」各種体験コーナーが充実。

自然の魅力を全身で感じることができます。



牧場のマキちゃんとダイバーのダイちゃん



世界一の技術「南部もぐり」を徹底説明！

洋野町は、世界的に有名な「南部もぐり」の発祥地です。100年以上も前の明治31年、種市沖で座礁した貨物船の解体引き上げ工事のため訪れた房州（千葉県）の潜水夫が、住民の磯崎定吉氏にヘルメット式の潜水技術を伝授したのが始まりだと言われています。

ヘルメット式の「南部もぐり」は、船上より命綱ともなるホースからヘルメット内に空気が送られることで長時間の潜水が可能なることから、港湾工事や海中調査などに向き、この分野で、世界一の技術を誇っています。また、県内の水揚げ量の約9割を占める天然ホヤ漁にも、その技術が生かされています。

現在、岩手県立種市高等学校の「海洋開発科」で潜水技術と水中土木を学ぶことができ、卒業生たちは日本にとどまらず世界の海で活躍しており、海洋開発の基礎を担う技術者として欠かせない存在になっています。



僕たちの伝統の技
「南部もぐり」も
ドラマに登場するよ！



ダイバーの
ダイちゃん